

令和3年度 さいたま市立南浦和中学校 自己評価書

校長 寺内 啓容

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

(1) 学校教育目標「日に新た 心豊かに たくましく」

(2) 令和3年度の重点目標及び評価項目

- ①生徒・教職員の安心・安全を徹底する。【生徒・教職員の心のケア・育成】
要望への真摯な態度、誠実な対応を心掛け、本校の覚悟と教育の素晴らしさを発信する。
- ②コミュニティ・スクールによる連携・協働として、保護者、地域等からの要望に誠実に対応し、地域力を有効に活用・熟議する。
- ④生徒の安心・安全を徹底するための危機管理【施設、会計、人事】体制の向上と校務分掌等に
係る対応記録的確な作成と保存、データや資料の適切な管理を行う。
- ⑤コロナ禍における生徒・教職員の心のケア・育成を行う。「対面授業」と「オンライン授業」
のベストミックスを図り、学力・発表力を伸ばす。
- ⑥教職員の機動力と指導力、体力を保持するための業務改善、負担過多の改善策を検討・実施。

2 評価結果について

概ね次のような結果となった。

(1) 生徒の学力・学習状況について (全国学力・学習状況調査結果を活用して)

- ・「全国」と比較した場合、国語・数学ともに全国平均を上回っている。学習指導要領の領域別に見ると、数学については全国平均を上回っており、学習内容の定着が図られていると言える。また、ICTを活用した授業や基礎・基本の定着を目指した小テストの実施等、指導の成果が表れていると言える。国語に関しては、学習指導要領の領域別を見ると全国平均を下回っている領域がある。特に、「書く能力」に課題があることが分かり、自分の考えをまとめたり、発表したりするなど、「言葉を形にする力(表現する力)」を育てる必要があると考えている。
- ・「よい授業」アンケートでも、因子③授業スキル、因子④生徒の活動、については、昨年度より向上し、因子③は、1.6pt、因子④は、1.2pt、市平均を上回っている。エバンジェリストの運営する研修(市ギガスクール構想を踏まえたタブレットを活用した授業の研究等)、教職員の熱心な教材研究により成果が上がったものと受け止めている。

(2) 各教科等の授業に関わる評価について

- ・生徒評価、「授業は分かりやすく楽しい」については、約96%、「努力したことや良い点を認めてくれる」については、約99%と、大変肯定的な回答を得ている。
- ・保護者評価では、多くの項目で高い評価を得られ、学習指導に関しては、89%と肯定的な評価をいただいているものと受け止めている。
- ・家庭学習については、生徒の約19%、保護者の約35%が不十分と回答している。

(3) 生徒の安心・安全の徹底、いじめの防止、生徒指導及び教育相談の体制について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、感染症対策、生徒の心的ケアについては、教職員の共通理解の下、真摯な態度と危機感をもって生徒、保護者の相談・面談等に努めた。
- ・生徒評価では、「先生は悩みや相談に乗ってくれますか」について約98%、「先生方はいじめや悪いことがあったときにきちんと指導してくれますか」について約99%と大変肯定的な回答を得ている。生徒指導・教育相談については、生徒・保護者、地域に寄り添い、誠実に面談等を行ってきた成果と言える。アンテナを高く、初動・初期対応を大切に、継続して取り組みたい。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

(1) 教育課程・学習指導

- ・ハイブリッド授業の実施(教室とオンライン、双方向の授業)をすることで、OJTによる研鑽を教職員が積むことになった。授業スキルの向上も図られたが、引き続き、生徒の学力・発表力を育成するための教員全員の公開授業の実施、市教委指導主事による要請訪問を積極的に依頼するなどして指導を仰ぎ、教員の授業力(ICT活用力の向上等含)を高める。
- ・生徒の実態を把握し、興味・関心を高めるとともに、①指導の個別化、②学習の個性化、③協働的な学びの実現を目指し、引き続き、学力、表現力・発表力の向上を目指す。

(2) 組織運営

- ・日頃から「報告・連絡・相談・見届・確認」を密にし、全職員間の情報交換・意思の疎通を密に行う組織体制を構築する。(特に「初動」は丁寧かつ迅速に行い、常に生徒と向き合い、寄り添い、事実をしっかりと受け止めて対応する。)
- ・過去の生徒事故、教職員事故を忘れることなく真摯に受け止め、教育公務員として法令遵守の精神を深く認識するとともに、倫理の確立と厳正な服務規律の確保について、全教職員で一丸となって取り組んでいきたい。